

第2回 国道6号 小美玉道路（仮称）検討会

1. 開催日時：令和3年12月7日（火）14：00～15：50
2. 開催場所：国土交通省 関東地方整備局 常陸河川国道事務所 会議室
3. 出席者：別紙のとおり
4. 挨拶 高橋副所長

皆様こんにちは。常陸河川国道事務所副所長の高橋でございます。本日は師走のお忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また日頃より、国土交通行政に様々なご理解ご協力いただきまして、御礼を申し上げたいと思います。

検討会に先立ちまして、一言ご挨拶を申し上げます。

今回の検討会につきましては、今年の3月23日に開催された第1回検討会以降の「フェーズⅠにおけるコミュニケーション活動」の報告をさせていただいた上で、「計画検討の進め方」、「課題・目的」、及び「フェーズⅡにおける検討内容（複数案と評価指標）とコミュニケーション活動」について、それぞれご審議いただくものです。

本日まで出席いただいております有識者の先生方、茨城県沿線市町の行政担当の皆様方におかれましては、各審議事項につきまして、それぞれの視点で様々なご意見やご助言をいただければと考えております。

そのうえで、今後、国道6号小美玉道路の概略計画の決定に向けた検討を進めてまいりたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

本日は、よろしくをお願いいたします。

岡本委員長）岡本でございます。

本日の議事を進行させていただきます。

本日は、フェーズⅠの報告事項と審議事項、フェーズⅡの審議事項と内容が盛りだくさんとなっております。

そのため、前半は1)フェーズⅠについての報告事項、2)フェーズⅠの審議事項についての説明・質疑応答を行い、後半に3)今後の検討会の進め方、スケジュール（案）、4)フェーズⅡについての審議事項の説明・質疑応答を行うという2部構成で議事を進めたいと思います。

それでは、1)フェーズⅠについての報告事項、2)フェーズⅠの審議事項について、事務局から説明をお願いします。

【フェーズⅠの報告事項と審議事項の説明】

事務局）資料2ページをご覧ください。第1回検討会の概要についてです。

第1回検討会の主なご意見と対応状況を表の形式で整理しています。いただいたご意見は、

コミュニケーション活動に反映させていただいております。

3 ページをご覧ください。本日の内容についてです。

本検討会の審議の範囲は図に示すとおりです。内容として、報告事項と審議事項を予定しています。

報告事項は、フェーズⅠのコミュニケーション活動の実施概要と実施結果、意見要旨と対応案についてです。

審議事項の1つ目は、計画検討の進め方（確定案）および課題・目的（確定案）についてです。

審議事項の2つ目は、フェーズⅡにおける検討内容（複数案と評価指標）とコミュニケーション活動についてです。

続きまして、フェーズⅠの報告事項について、説明いたします。

5 ページをご覧ください。コミュニケーション活動の実施概要についてです。

フェーズⅠにおける地域とのコミュニケーション方法として、Web アンケート、オープンハウス、ワークショップ、企業ヒアリングをそれぞれ実施しました。また、フェーズⅠにおける地域への情報提供として、ニュースレターの配布、ホームページの掲載を行いました。

6 ページをご覧ください。ニュースレターによる情報提供結果についてです。

ニュースレター創刊号は令和3年5月に発行し、フェーズⅠの内容についての情報提供を行いました。

配布方法としては、郵便による全戸配布に加え、回覧板、公的施設等での常設、及びオープンハウスでそれぞれ配布を行いました。

7 ページをご覧ください。Web アンケートの概要についてです。

Web アンケートは、令和3年4月13日～6月30日の期間で実施しました。ポータルサイトやニュースレターからリンクしたアンケートページにて、計画検討の進め方や小美玉道路への期待・懸念について、地域のみなさまからの意見を募集しました。

8 ページをご覧ください。Web アンケートの実施結果についてです。

回答数は、合計125名でした。

そのうち、計画検討の進め方に関する意見は208であり、うち約4割が事業段階の配慮、約3割がコミュニケーション、約2割が情報の提示に関する意見でした。

また、課題・目的に関する意見は353あり、うち約3割が移動性、約2割が地域活性化に関する意見でした。

9 ページをご覧ください。オープンハウスの概要についてです。

オープンハウスは、6月の下旬に5会場で6回開催し、来場者数は延べ457名でした。

10 ページをご覧ください。オープンハウスの実施結果についてです。

回答数は、合計385名でした。

そのうち、計画検討の進め方に関する意見は483あり、コミュニケーションと事業段階の配慮がそれぞれ約3割でした。

また、課題・目的に関する意見は929あり、うち約3割が移動性に関する意見でした。

11 ページをご覧ください。企業ヒアリング（アンケート）の概要についてです。

国道6号の利用が想定される企業等に対して、ヒアリング調査を実施しました。

12 ページをご覧ください。

企業ヒアリングは、経済・産業、運輸・物流、医療・教育の各分野から選定した48社に対して実施し、37社から回答を頂きました。

13 ページをご覧ください。企業ヒアリング（アンケート）の実施結果についてです。

国道6号の現道に関する課題のうち、走行速度の低下に関して約9割が「そう思う」、「ややそう思う」という意見でした。

整備の重要性について、約8割が「そう思う」、「ややそう思う」という意見でした。

課題・目的に関する意見は97あり、うち約5割が移動性に関する意見でした。

14 ページをご覧ください。ワークショップの概要についてです。

7月11日（日）に小美玉市美野里公民館でワークショップを開催し、27名の方が参加されました。参加者は、沿線住民・沿線事業者等、道路利用者、産業・経済関係者からそれぞれ選出された方です。公募を行いました。希望者はいませんでした。

15 ページをご覧ください。ワークショップの実施結果についてです。

第1回ワークショップの結果とりまとめの概要版を示しています。

計画検討の進め方については、地域の意見をしっかり聞くことへの期待、整備を急ぐことへの期待、具体的なルート案等を対象とした議論を望む等の意見がありました。

また、国道6号小美玉道路の課題・目的については、渋滞解消やアクセス性の向上、沿道での商業立地や賑わいの期待がある一方、地域コミュニティの分断や埋蔵文化財などの地域資源への影響、新たな水災害などを心配する声をいただいています。

17～19 ページに意見要旨の取りまとめ方法を示しています。

17 ページをご覧ください。意見の整理分析方法についての基本的な考え方ですが、意見の背後にある理由に着目して整理し、いただいた意見をどのように受け取ったかを意見要旨として示しています。また、同じ趣旨の意見は同じ意見要旨として集約し、意見数の多寡ではなく、少数であっても異なる意見はひとつの意見要旨として整理しています。

18 ページ、19 ページは、意見要旨の取りまとめの方法を解説したものです。

20 ページをご覧ください。意見要旨の取りまとめ結果と対応案の検討方法についてです。

意見は全部で2,532であり、「計画検討の進め方」についての意見数は783で約3割、「課題・目的」についての意見数は1,519で約6割、「その他」についての意見数は230で約1割となっています。

計画検討の進め方の意見は、図の真ん中の【意見要旨の作成】にあるように、K1. 情報の提示からK5. 事業段階の配慮までの5分類で意見要旨をとりまとめました。

また、課題・目的の意見は、図の下にあるように、M1. 移動性からM13. 考慮すべきその他の視点までの13分類で意見要旨をとりまとめました。

更に、意見要旨に対する事務局の対応案を検討した上で、右側の図、対応案aは補足説明すること、対応案bは進め方に反映すること、対応案cは課題・目的に反映すること、対応案dは概略計画決定以降の検討に申し送ることの4種類のいずれに該当するかを整理しました。

21 ページをご覧ください。その他の意見の例についてです。

「その他」の意見は、計画検討の進め方や課題・目的に関わらない賛否・主張、回答の主旨が事務局で確認できなかったものです。

ただし、フェーズⅠにおいて「その他」扱いした意見については、ご意見としてお受けします。また、フェーズⅡ以降に関連する意見は、対応案の検討に反映します。

22～24 ページに「計画検討の進め方」に関する意見要旨と対応案を示しています。

22 ページをご覧ください。先ほど、20 ページで説明しました整理について、表の左から、意見要旨の5分類のK1からK5、意見要旨の内容、対応案、対応案の種類順に整理しています。

分類のK1. 情報の提示をみていただきますと、意見要旨は1)～7)の7つとなっています。これらの意見要旨の対応案を事務局で検討した結果を説明します。

意見要旨1)なぜ、小美玉道路の計画に着手するのか説明して欲しい、2)混雑していない区間も含まれているなど、なぜこの区間なのかについて疑問がある、3)国道6号はどれだけ混雑しているのか、混雑の実態を客観的に評価する必要があるの対応案をみていただきますと、現在の状況やくわしい情報を説明してほしいとの意見として、(1)小美玉道路の渋滞等課題の詳しい情報、検討対象区間選定の考え方等について、ポータルサイトで説明しますとの対応案にしたいと考えています。

また、意見要旨5)検討の状況や予定を示して欲しいの対応案をみていただきますと、(3)これまでの検討状況や今後の予定、また、意見等の受け止め方について、ポータルサイトやニューズレターで説明します、(4)概略計画以降の一般的な道路事業の手順等について、ポータルサイトで説明しますとの対応案にしたいと考えています。また、一番右側の対応案の種類がaとして、補足説明することを考えています。

次に、左側、分類のK2. 意見の扱い・決め方をみていただきますと、意見要旨は1)～3)の3つとなっています。このうち、意見要旨1)の対応案を事務局で検討した結果を説明します。

意見要旨1) 意見が反映されるのか不安の対応案をみていただきますと、(3)これまでの検討状況や今後の予定、また、意見等の受け止め方について、ポータルサイトやニューズレター（各フェーズ等に発行）で説明しますとの対応案にしたいと考えています。

また、一番右側の対応案の種類がaとして、補足説明することを考えています。

23 ページをご覧ください。

K3. コミュニケーションをみていただきますと、意見要旨は1)～2)の2つとなっており、このうち、意見要旨1)の対応案を事務局で検討した結果、意見要旨1)地域の意見を取り入れて円満に進めて欲しいの対応案をみていただきますと、(7)フェーズを区切りながら継続的に地元意見を把握します、(8)地域の関心や懸念を掘り下げて、段階ごとに国土交通省で受け止めた結果を報告するなど、丁寧な進め方に努めますとの対応案にしたいと考えています。

また、一番右側の対応案の種類がbとして考え、後ほどご説明する計画検討の進め方に反映をしております。

K4. 概略計画案の選定方法をみていただきますと、意見要旨は1)～5)の5つとなっており、このうち、意見要旨1)計画の検討ではコストがどのように配慮されるのかの対応案をみていただきますと、(10)道路整備にはコストがかかるとともに、各種調査や用地確保、施工等にそれ

ぞれ期間を要しますが、事業の経済性・効率性については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識していますとの対応案にしたいと考えています。

また、一番右側の対応案の種類がcと考え、後ほどご説明する課題・目的に反映をしております。

24 ページにおいては、K5. 事業段階の配慮をみていただきますと、意見要旨は1)~7)の7つとなっており、このうち、意見要旨1)整備にあたって計画的に考えて進めて欲しいの対応案をみていただきますと、(1)小美玉道路の渋滞等課題の詳しい情報、検討対象区間選定の考え方等について、ポータルサイトで説明しますとの対応案にしたいと考えています。一番右側の対応案の種類がaと考え、補足説明することとしています。

25~29 ページでは、「課題・目的」に関する意見要旨と対応案を示しています。

25 ページをご覧ください。

表の左から、意見要旨の13分類M1からM13を順に、意見要旨の内容、対応案、対応案の種類順に整理しました。

分類のM1. 移動性をみていただきますと、意見要旨は1)~3)の3つとなっています。このうち、意見要旨2)国道6号は混雑がひどく困っており、慢性的な渋滞が解消されることを期待しているの対応案をみていただきますと、(18)渋滞緩和は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識していますとの対応案にしたいと考えています。

また、対応案の種類がcとして考え、後ほどご説明する課題・目的に反映をしております。分類のM2. 信頼性をみていただきますと、意見要旨は1)~6)の6つとなっています。

意見要旨1)渋滞が激しく時間が読めない国道6号を避け迂回することがあるの対応案をみていただきますと、(20)時間が読めない状況を信頼性の低さの問題として捉え、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識していますとの、対応案にしたいと考えています。

また、対応案の種類がcと考え、後ほどご説明する課題・目的に反映をしております。

26 ページをご覧ください。

分類のM3. 走行性、M4. アクセス性、M5. ネットワークのうち、M3. 走行性をみていただきますと、意見要旨は1)~4)の4つとなっています。

意見要旨1)走りやすく、右折しやすい道になるとよいの対応案をみていただきますと、(2)走行性の向上は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識していますとの対応案にしたいと考えています。

また、対応案の種類がcと考え、後ほどご説明する課題・目的に反映をしております。

27 ページをご覧ください。

M6. 安全性、M7. 物流、M8. 環境のうち、M6. 安全性をみていただきますと、意見要旨は1)~6)の6つとなっています。

1)渋滞が緩和されることで交通事故が減少するとよいの対応案をみていただきますと、(29)安全性については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識していますとの対応案にしたいと考えています。

また、対応案の種類がcと考え、後ほどご説明する課題・目的に反映をしております。

28 ページをご覧ください。

M9. 地域資源、M10. 地域活性化のうち、M9. 地域資源をみていただきますと、意見要旨は1)～4)の4つとなっています。

1) 営農環境に配慮して欲しいの対応案をみていただきますと、(38) 営農環境については、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識していますとの対応案にしたいと考えています。

また、対応案の種類がcと考え、後ほどご説明する課題・目的に反映をしております。

29 ページをご覧ください。

M11. 防災、M12. 医療連携のうち、M11. 防災をみていただきますと、意見要旨は1)～2)の2つとなっています。

1) 水災害時の浸水リスクや地盤の状況等を踏まえて計画して欲しいの対応案をみていただきますと、(48) 水害等による災害リスクの低減は、概略計画の検討において配慮すべき要素と認識していますとの対応案にしたいと考えています。

また、対応案の種類がcと考え、後ほどご説明する課題・目的に反映をしております。

M13. 考慮すべきその他の視点は、対応案の種類がdであるため、概略計画決定以降の検討に申し送ることと考えております。

ここまでの内容が、フェーズⅠについての報告事項となります。

引き続きまして、フェーズⅠについての審議事項のご説明をいたします。

31 ページをご覧ください。フェーズⅠで確定する事項についてです。

フェーズⅠで確定する事項は、以下の2点です。

1 点目は、「小美玉道路の計画検討の進め方」についてです。これは、対応案bの進め方に反映することをふまえて確定します。

2 点目は、「小美玉道路の課題・目的」についてです。これは、対応案cの課題・目的に反映することをふまえて確定します。

また、対応案aの補足説明することについては、ポータルサイトやニュースレターで説明するなど、各対応案に基づき、適切に対応いたします。

対応案dの概略計画決定以降の検討に申し送ることについては、フェーズⅠ～Ⅲを経て概略計画を決定した後の検討に関わることであることから、概略計画決定以降の検討に申し送る事項として整理しています。

33～35 ページに計画検討の進め方（確定案）を示しています。

33 ページをご覧ください。計画検討の進め方は、「基本的事項」と「細目」に分けて考えて作成しました。

基本的事項は、計画検討の流れ、各フェーズでのコミュニケーション方法、地元検討会等との関係などの基本的事項を示しています。

細目は、基本的事項を補足する内容を記載しています。

34 ページをご覧ください。計画検討の進め方（基本的事項）を説明いたします。国道6号小美玉道路の計画検討は、フェーズⅠ、Ⅱ、Ⅲの順に検討を進め、検討成果を順次確定します。各フェーズの検討においては、以前のフェーズにおける確定事項を前提とします。

各段階では、様々な方法で地域のみなさまとのコミュニケーションを重ね、地域の意見や地元検討会からの助言を踏まえながら検討します。

計画検討では、国道6号小美玉道路の概略計画の基礎となる概略計画案を定めます。

国土交通省は、概略計画案を基礎としつつ、社会資本整備審議会道路分科会関東地方小委員会の審議を経て概略計画を定めます。

ここで、概略計画は、起終点やルート帯、付帯事項などを定める計画で、都市計画の前提となる計画です。

35ページをご覧ください。計画検討の進め方（細目）を説明いたします。計画検討の進め方（基本的事項）に加え、配慮する事項として、補足説明事項、コミュニケーションの対象者、意見の扱いと決め方、検討体制、概略計画案の選定方法、事業の進め方について、それぞれ記載しています。

37～43ページに課題・目的（確定案）を示しています。

37ページをご覧ください。課題・目的の検討過程を示しています。

初めに、国道6号小美玉道路に求められる機能（案）について、ニューズレター創刊号で情報提供しました。

次に、多様なコミュニケーション方法で市民等から意見を受け取り、事務局としての受け止め方を意見要旨としてとりまとめました。

また、意見要旨のうち、対応案cは課題・目的に反映することと判断した内容を当初の機能（案）に反映し整理しました。

そして、本日の地元検討会の助言を受け、課題・目的をフェーズIの結論として確定したいと考えています。

その後、目的の達成や課題解決のための複数案を検討するとともに、併せて、複数案を比較評価するための評価指標を設定します。

38ページをご覧ください。課題・目的の分類（カテゴリ）を示しています。

フェーズIの地域とのコミュニケーション活動を踏まえた意見要旨と対応案を検討した結果、対応案cの課題・目的に反映することとされたものは、移動性、信頼性、走行性、アクセス性、ネットワーク、安全性、物流、環境、地域資源、地域活性化、防災、医療連携、概略計画案の選定方法、事業段階の配慮の14分類となりました。

これらの地域の意見を踏まえて、いくつかの課題を追加あるいは細分化し、国道6号小美玉道路の課題・目的を図の右下の1.交通渋滞から、物流、空港アクセス、交通事故、防災、医療連携、生活環境、自然・歴史・文化、まちづくり、営農環境、効果発現の11分類としました。

39ページをご覧ください。先ほど説明しました11分類の視点から、国道6号小美玉道路の課題・目的を検討したものです。

次の40～43ページは、39ページに示しました国道6号小美玉道路の課題・目的と22～29ページに示しました対応案との関係を整理したものです。

説明は以上となります。よろしく申し上げます。

【フェーズ I の報告事項と審議事項の質疑応答】

岡本委員長) 今の説明に関して、意見や質問等ありましたら、お願いします。

平田委員) 大変丁寧な情報提供と意見収集を進められた事務局、コミュニケーション活動をされた皆さんに敬意を表したいと思います。若干アンケートが少なかったというのがあるので、その理由が何かあれば次の機会に活かしていただきたい。これはお願いです。

意見の1つ目が、21ページのその他意見の上から5つ目、「小美玉道路の計画検討の進め方を評価する」というのは、進め方をポジティブに評価してくれたというようなコメントであるが、これをその他の計画検討の進め方の賛否・主張に関係がないというところに入れているのはなぜか。ポジティブに評価してくれているのなら、積極的に紹介してもいいと思う。

2つ目が、計画をどう進めるかということと、課題と目的を設定することを今回は一緒にやっているが、計画検討を進め方からきちんと意見を聴いて丁寧にやっていることに対して、ポジティブな意見があまり見られなかったのか、あえて出さなかったのか。オープンハウスとかワークショップで「いいね」という意見がどのくらいあるのか、あるいは「もっと早くやればいいじゃないか」という意見も当然あるだろうと想像はするが、ここに出ていないポジティブな意見があれば紹介してもらいたい。

3つ目が、ワークショップも事前にどのような意見があったかを聞いたときに、かなり具体的にリアルな議論がなされていたと感じた。特に印象的だったのは「地域コミュニティの分断」で、現道の6号を4車線に拡幅する案を出した時に、今沿線両側はかなり密接なコミュニティが貼り付いていて、その分断に懸念を持っている意見が強かったという印象であるが、それについて、28ページにはコミュニティ分断関係の意見要旨が出ていないので、これは入れなくていいのか。

事務局) 1つ目のアンケートの数について、少ない印象があるとのことで、この後の資料で、Webアンケートの事務局の改善案をご説明いたしますが、次回に向けて回答方法や操作方法等を改善をしたいと思います。

2つ目の、意見要旨の整理の仕方は、ポジティブな意見をまとめていませんが、「なぜよかったか」との部分掘り下げをお聞きし、「こういうところがいい」、「こういう情報提供があった方がいい」という細分化した内容を要旨としてまとめております。

3つ目の、コミュニティは意見要旨のM10. 地域活性化の1)の地域の発展や、3)の沿道の賑わいに入っていると思うので、確認します。

岡本委員長) その他に何かありますか。

和田委員) 皆さん交通渋滞に関心があるが、それは分かりやすいからというのも多分にある。それに比べ、物流、交通アクセス、防災、医療連携についてどこまでメリットを理解しているのか、ちょっと分からないのが気になった。交通渋滞が緩和して幹線としての機能が成り立つ

たあかつきには物流や交通アクセスなどがメリットとして出てくるという説明をした方がいいと思った。

事務局) メリットを伝えられるように、コミュニケーションしていきたいと思います。

岡本委員長) 29 ページは分類が d ということで、検討会の次の段階の設計段階に関わることで整理されているが、「維持管理に配慮してほしい」というのは非常に貴重な意見である。グーグルストリートビューで調べると常磐道は 800m に 1 つ橋が架かっている。その橋は自治体がメンテナンスをしなくてはいけない。高速道路が作られることで地域分断が起こるので、そのために架けた橋がそれだけある。アメリカのハイウェイでは跨道橋の間隔が 2 キロもあいているわけです。地域分断の話もあったが、掘割とか高速道路自体は維持管理があまり要らないかもしれないが、他に費用がかかるような作り方はしてほしくないと思う。M13 に分類されているところは、もう少し丁寧に書いて申し送りしてもいいかと思う。これからのオープンハウス等の取り組みにおいても、具体的にどんなことがあるのかという情報があれば、意見を出した方も本当は聞きたいのかもしれない。「こういうアイデアはある」という答えもある程度もっていただければいいと思う。

和田委員) 38 ページで交通事故と交通渋滞は課題で他は課題ではなく、メリット、機能となっているが、ニューズレター 5 ページの上に「周辺地域の課題は 6 機能にあると捉えられており」と交通渋滞と交通事故が機能になっており、違和感がある。指標として交通渋滞と交通事故はいいと思うが、ここは交通円滑性と交通安全ではだめなのか。目的なので統一してはどうか。そうすれば課題・目的と常にいう必要もなくなり、すっきりすると思う。

岡本委員長) 防災機能、物流機能、アクセス機能、連携機能、医療機能は機能だが、交通安全性機能とは言わない。移動性と安全性は他の 4 つとは違う。2+4 という整理もあり得る。

和田委員) 交通渋滞と交通事故を機能にしてしまうのは違和感がある。

事務局) 事務局の方で、表現の方法を検討します。

岡本委員長) 交通の流動性、安全性、移動性を確保したうえで、4 つの機能に対する貢献を果たすべきものであるというのが国道 6 号に求められているものだろう。

「観光」というキーワードが無いが、自然・歴史・文化が観光資源だということか。

平田委員) 渋滞、円滑性があり、その結果、防災機能、物流機能も上がる、地域資源にアクセスしやすくなる、活性化が起きる、観光もある。フェーズ I のアンケートだと地元の方から聞くので、広域的なメリットは浮かばないかもしれない。むしろ、国の事業主体側から積極的にいう。このリンクを使うのは地元の方だけではなくて、東北、東京を含めかなり多くの方が使

うので、広域的な交通機能も積極的にアピールしてもいいと思う。

平田委員) 進め方ということで、以前から地元の要望が結構あったが、どちらかというと早くやってくれという時にこそ、丁寧にやって、隠れている声を拾い上げることがフェーズⅠを見ても重要だと思ったので、フェーズⅡに行くときもそういう意識で、今は小さくても、将来は大きなリスクになる可能性もあるし、このまま丁寧に、このプロセスでやっていただけたらよい。

岡本委員長) 前半の質疑応答は以上とさせていただきます。

それでは、3) 今後の検討会の進め方、スケジュール(案)、4) フェーズⅡについて、事務局から説明をお願いします。

【スケジュール(案)、フェーズⅡの審議事項の説明】

事務局) 45 ページをご覧ください。今後の検討会の進め方、スケジュール(案)についてです。

本検討会の審議を受けて、フェーズⅠは完了し、フェーズⅡのコミュニケーション活動、第3回検討会と進めてまいりたいと考えています。

本検討会におけるフェーズⅡの審議事項をご説明いたします。

47 ページをご覧ください。フェーズⅡについてです。

フェーズⅡでは、ルート帯・主たる構造の複数案と、複数案を評価するための評価指標を確定します。

複数案と評価指標を検討する際には、技術的な制約や周辺への影響等を踏まえる他、地域のみなさまやご利用される方々のご懸念・ご期待などのご意見にも配慮します。

地域のみなさまやご利用される方々からルート帯・主たる構造の複数案や評価指標についてご意見を伺う際には、あらかじめ設定した案をご提示した上で、Web アンケート、オープンハウス、ワークショップ等を通じてご意見を募集します。

49 ページをご覧ください。複数案を比較評価するための評価指標(案)についてです。

複数案の比較を行うために、評価指標(案)を検討しました。39 ページでご説明した11の課題・目的を踏まえて、考えられる評価指標(案)を整理した結果、表に示す16指標案となりました。

この内容につきましては、フェーズⅡのコミュニケーション活動において、地域のみなさまからご意見をいただきます。

51～56 ページにルート帯・主たる構造の複数案を示しています。

51 ページをご覧ください。フェーズⅠで確定された国道6号小美玉道路の課題・目的を踏まえ、『ルート帯・主たる構造』の選定の視点を整理したうえで、具体的なルート帯案として、現道拡幅案、バイパス案の2案を設定しました。なお、課題・目的、ルート帯・主たる構造の選定の視pointsの欄は、49 ページに示した表と同じ内容となっています。

52 ページをご覧ください。複数案の2案について説明します。赤色で示している案①は、現

道拡幅（一部バイパス）案で平面構造を基本としています。

また、青色で示している案②は、バイパス案で立体構造（盛土・切土）を基本としています。

53 ページをご覧ください。ルート帯を検討する際に配慮すべき地域の資源・事項を図にプロットしたものです。コミュニケーション活動を通じて、地域のみなさまからご意見をいただきます。

54 ページと 55 ページには、先ほど説明しました案①現道拡幅案と案②バイパス案のメリット・デメリットをそれぞれ整理しています。

56 ページをご覧ください。評価指標(案)を用いた比較対象複数案の比較(素案)を示しています。なお、評価指標(案)は、フェーズⅡでのコミュニケーションにおける意見により修正を行いますので、ここでお示しした比較(素案)は参考です。フェーズⅡで評価指標(案)を確定したうえで、確定した評価指標に基づく比較を行い、最終的にはフェーズⅢで確定します。

次にフェーズⅡにおけるコミュニケーション活動について説明します。

58 ページをご覧ください。フェーズⅡにおけるコミュニケーション活動についてです。

フェーズⅡで地域のみなさま等に「お伝えすること」、「お伺いすること」を整理しています。フェーズⅠの結果について、地域のみなさまに情報提供するとともに、複数案、評価指標の案について、地域のみなさまに先ほどご説明しました内容のご意見を伺います。

59 ページをご覧ください。フェーズⅡにおける地域とのコミュニケーション方法についてです。

フェーズⅡにおける地域とのコミュニケーション方法として、Web アンケート、オープンハウス、ワークショップを実施します。また、フェーズⅡにおける地域への情報提供は、ニューズレター、国道事務所・県・市・町のホームページに掲載して行います。

60 ページをご覧ください。フェーズⅡにおける地域とのコミュニケーション方法の概要(案)についてです。

Web アンケートの実施期間、オープンハウス、ワークショップの実施箇所・実施日時の案をそれぞれ示しています。

61 ページ～64 ページに、第 2 号のニューズレター(案)を示しています。ニューズレターは、フェーズⅠにおける検討結果を報告するとともに、フェーズⅡにおける地域とのコミュニケーション方法等について周知することを目的に作成しています。本検討会での承認をいただいた後に、印刷・配布を行っていきます。

61 ページ左側表紙が検討の状況、右側裏表紙がご意見の募集、62 ページが頂いた様々なご意見、63 ページが計画検討の進め方、課題・目的、64 ページがフェーズⅢで検討する複数案、比較評価案の素案を参考として記載することを考えています。

65 ページをご覧ください。ニューズレターの配布方法についてです。

第 2 号のニューズレターの配布方法については、回覧板・広報誌折込による全戸配布及び公的施設などでの常設を想定しています。

66 ページ～71 ページをご覧ください。Web アンケートの質問内容(案)を示しています。質問内容は、先ほど説明しました 48 ページから 56 ページまでの複数案を評価するための評価指

標、ルート帯・主たる構造の複数案に関するものとなっています。本検討会での承認をいただいた後に、Web アンケート画面を作成し、実施したいと考えています。

72 ページをご覧ください。オープンハウス案についてです。

オープンハウスは5箇所（6回）の開催を予定しています。会場では、右側に示す聞き取り票を使用し、国、県、市、町の職員による聞き取りによって意見を把握します。

73 ページをご覧ください。ワークショップ案についてです。

第2回ワークショップでは、フェーズⅠにおける検討結果を報告するとともに、複数案や評価指標（案）などについてグループ討議を行います。開催場所は、第1回と同様に小美玉市美野里公民館としています。

説明は以上となります。よろしく申し上げます。

【スケジュール（案）、フェーズⅡの審議事項の質疑応答】

岡本委員長）今の説明に関して、意見や質問等ありましたら、お願いします。

岡本委員長）今後、2月にかけて、Web アンケート、オープンハウス、ワークショップ、ホームページ、ニュースレターというコミュニケーションを図るということになります。

フェーズⅡ以降について。複数案を評価するための評価指標について、49 ページの表、いかがでしょうか。

商業施設や病院等へのアクセス時間の短縮というのが一番上にきているが、結果的にはこれはどこからアクセスするのかという話なので、必ずしも、目的地、出発地は不定だし、目的地をこの2つにする必然性もない。公共機関、特に市役所等でもいいし、豪雨災害があると避難所等としての小中学校、公共施設ということもある。これは絞らないと議論ができないのか。あるいは、総所要時間という概念を使うが、全体としてこのエリアで削減できればいいわけだと思う。そういう言葉でもいいのではないか。解説つきになるが、総所要時間にすると、どうやって計算するのか、どういう概念かということになる。

和田委員）平均速度でいいのではないか。総所要時間だと台数によって変わる。アクセス時間だとODを決めないといけないので、移動性に関しては平均速度が高くなるかがいいと思う。

高橋委員）平均速度の向上が分かりやすくいいと思う。

和田委員）評価指標はシミュレーションをやって出すのか。実際に評価するのは、どの時点か。

事務局）実際に評価するのはフェーズⅢのところで、フェーズⅡでは評価指標の案を決める段階です。案に対して評価していくのは次のフェーズⅢの段階で、56 ページに示すように、案1と案2の比較評価のところで、使用していきます。

平田委員) あくまで定性評価をするということですか。ちゃんと定量的に評価するのかという、平均速度から10%上がりますとか、そこまで評価するのかって質問かもしれないが、違いますね。

事務局) ルート帯の段階であり、定性的な比較評価になると思います。

高橋委員) 定性的評価、定量的評価にするかは、考えた方がいい。

平田委員) あくまで、ルート帯なので正確には出ないにしても、大きいか小さいか。住民はそこを欲しいかもしれない。

平田委員) 52ページでルート帯、主たる構造2案整理したということで、なぜこの2案になったのかという説明が必ずしも丁寧に説明されていないような気がする。

あくまで、たたき台として2つあって、フェーズⅡの住民からの意見をもらった時に3つ4つと増える可能性もあるが、その時になぜこの2つになったのかという説明がどこに書いてあるのか。

事務局) この資料では、そこまで詳しく書かれていないので工夫したいと思います。これからフェーズⅡということでルート帯について意見を伺う中で、何もお示ししないと意見も言いつらいと思うのと、フェーズⅠのコミュニケーション活動の中でも、ある程度ルート帯の案を示されないと、なかなか言いたいことも言えないという意見もあり、複数案を提示しています。

複数案は確定したものではなく、現道拡幅については、早く国道6号に戻って、現道を2車線から4車線に拡幅する案としています。

もう一つは、沿道に住宅や物件が張りついており、そこをなるべく避け、なるべく線形がきつくならないように、最短距離となるように結んだバイパス案となります。バイパスのエリアにどういう資源があるとか、ルート帯からルートを絞り込むときにはどういうものに配慮して計画を進めていくかということも含めてご意見をいただけるように、ルート帯の案として示しています。

高橋委員) 現道拡幅案の基本的コンセプトは、既存の国道をなるべく有効に生かして、交通容量を上げる案というような考え方である。バイパス案はなるべく最短ルートを使って考えるというような、考え方のポイントである。このようなコンセプトを示したい。

平田委員) 多くの人は大丈夫だと思うが初めて聞く人は、なぜこの2案になったのか分からないので、そういう人たちの意見をもらうためにも丁寧に説明した方がいい。バイパスも最短で行ったというのが分かりやすい。無駄に迂回する必要はないので。また、コントロールポイントも考慮したと思うので、詳しく書く必要はないが、そこも考えて速達性をあげるためにという文言があるだけで違うと思う。

事務局) フェーズⅡのコミュニケーション活動の中で、例えばオープンハウスでは一般の方とコミュニケーションを交わすこともあるので、そういった説明をするよう心掛けたいです。

バイパス案は現道拡幅案と若干構造を変えていて、イメージでは土浦バイパスのように、なるべく交差道路と交差点を設けないというコンセプトで、52ページにあるように、沿道の土地より少し高くして直接出入りが制限する形で、交差点もなるべく立体化しています。それに対してどんな意見があるのか、ということも含めて丁寧にルート帯、ルートの構造について説明しつつ、意見を伺いながら進めていきたいと考えています。

平田委員) 56ページは素案なのでこのまま出すのか。これは重要だが全部読むのは労力がかかる。効果が小さいなどと比較評価してあるので、付属で○×△があると分かりやすい。

気になる点は、商業施設や病院というのはどこの？と思う。病院は、広域性なので今回のエリアより水戸やつくばとか東京の病院のイメージだと思う。

「当該箇所の国道6号や周辺道路の交通量」とあるが、「4車線化により車線が増え国道6号の交通量が増加し、周辺道路の交通量が減少する」という、何が言いたいのかよく分からない。増える事がいいのか、増えるから沿道は騒音で環境が悪くなるのか、迂回していた人が国道6号を通るので生活道路の交通量が減ることを言いたいのか曖昧である。国道6号がどう変わるか、周辺道路がどうなるのかを分離した方が分かりやすい。

「生活環境」で、「排気ガス、騒音、振動への影響」ということで、「拡幅工事となり交通規制や沿道への騒音云々」と工事の時のことだけを書いてある。それでいいのか。できた後に、交通量が増えて騒音振動が増えますよということを書きたいのであれば言い方を変えないといけない。

「コミュニティの影響」で、「現道拡幅案だと既存の地域コミュニティの影響はバイパス案より大きい」という意味が分断という意味なのか、用地買収で取られるという意味なのか、伝え方で影響を受ける人も違う。地域分断をことさら強調するべきか地元の意見を聴きたいが、書き方を丁寧にした方が意見が言えると思う。

事務局) 説明が長すぎて読みにくくならないように、逆に短すぎて意味がわからなくならないように、コミュニケーション活動の時までに、文言をより伝わるように整理したいと考えています。

国道6号が2車線から4車線になれば容量が増えて交通量が増え、周辺道路を使っていた車が4車線化された国道6号を使うということを簡潔に記載したつもりでしたが、短くしたら分かりにくくなってしまったので、更にブラッシュアップしたいと思います。

佐久間委員) ニュースレターの図面で、石岡市の区間の黒い破線の意味は既にルートが決まっているからだと思う。茨城町側も都市計画決定済みなので同じ表現にすると、小美玉道路が現道でここに戻さなければならないという位置づけになるので、その辺を表記してほしい。

事務局) 検討します。

岡本委員長) 56 ページの表は数字を書き込んでいくのが分かりやすい。それは全部数字で出せそうか。根拠を問われたときに出せるか。

事務局) 数字となると、ルート帯のレベルでは難しいと考えています。そのため、比較評価になっています。

岡本委員長) 地域コミュニティの影響は大きいと断言しているが、拡幅すると歩行者、歩道の配慮もするし、そうなると思んなに大きな影響はなかったみたいなこともあるだろうし、断言できるのかという疑問もある。表現の仕方には配慮が必要である。

道路構造について、トンネルがいいという人もいる。道路構造は橋梁、平面、盛土、切土、トンネルのそれぞれにメリット・デメリットがあるのに、今回は2つしかない。現道は拡幅で平面というのは理解しやすいが、バイパス案の道路構造については、どれくらいの幅をもっているのか。トンネルがいいという意見に対して、答えを用意しておかないと議論がかみ合わない。標準的な案とは別にトンネルのメリット・デメリットを整理しておくべきである。

53 ページの「配慮すべき地域の資源・事項」は、全部書き込まれているのか。ニューズレターの地図の中に、軟弱地盤や浸水想定区域等は、すべて網羅されているのか。

事務局) 構造やルート帯は案として示していますが、別の構造がいいとのご意見や、その理由についてもコミュニケーションでご意見を伺いたいと考えています。

配慮すべき地域の資源・事項は、今調べられる範囲、考えている範囲ですので、コミュニケーション活動の中で、他の意見が出てくるかもしれないので、そこで伺っていきたいと考えています。

岡本委員長) 軟弱地盤や浸水想定区域は決まっているのでは。

事務局) 決まっています反映されていませんが、ポータルサイトから調べられるように工夫したいです。すべて入れると、ボリュームが多く煩雑になります。

高橋委員) こういうものに配慮するというものなので、他に意見があれば伺う。

ルート帯案に入っていれば、それに配慮しながら構造を検討する。そこを伝えるようにしたい。

和田委員) バイパス案は地域に流入する通過交通を排除する案で、現状どのくらいの通過交通があるのかを参考情報としてほしい。

事務局) そういった情報も、ポータルサイトの方を充実し、情報を発信していきたいと思いま

す。

岡本委員長) ポータルサイトの情報は、スケジュールに明記されていないが、いつくらいまでに行うのか。

事務局) 第2回検討会後のコミュニケーション活動に入るタイミングで、ポータルサイトを更新したいと思います。

岡本委員長) なんでも印刷にすればいいということではないが、なんでもWEBでは伝わりにくいこともある。見たいという人は少なからずいるので、ポータルサイト完成のあかつきには印刷して公民館等においてあるというのが丁寧だと思う。

事務局) ポータルサイトを見られない人もいるので、オープンハウスでもネットにつながらないと見られないでは、コミュニケーションができないので、印刷して手元において説明できるようにしたいと考えています。

岡本委員長) アンケートの字が小さすぎる。特に、代替案の比較表は、字が小さい気がする。

事務局) 何かしらの工夫をしたいと考えています。字が小さすぎて、敬遠されて意見が言えないようなことがないように配慮します。

岡本委員長) 最低限の文字サイズは決めておいた方がいい。

【その他】

岡本委員長) 質疑応答は以上とさせていただきます。

議事内容 4. その他について、事務局から説明をお願いします。

事務局) 色々ご審議いただきありがとうございます。頂いた意見で修正するところもありますが、概ね了承いただいたということで、頂いた意見の修正をさせて頂きつつ、準備が整い次第、コミュニケーション活動に入り、その結果がとりまとまった後に、その後のスケジュールを進めていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

コミュニケーション活動につきましては、日時を記載させて頂いております。その結果については、再度ご報告させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

平田委員) オープンハウスは寒い時期の開催なので、鉄道駅にパネル等を掲示してはどうか。

事務局) 可能な範囲で、なるべく周知できるよう、検討します。

岡本委員長) それでは、本日の議事はこれまでということで、進行を事務局にお返しします。

事務局) 議事概要につきましては、委員長と委員の皆様にご確認をいただいた上でホームページに公表させていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

これをもちまして第2回小美玉道路検討会を閉会とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

以 上